

五、後光厳天皇口宣案（宿紙）

解説

貞治三年（一三六四）二月二日、後光厳天皇が左兵衛尉の地位にあつた藤原貞久なる人物を、兵庫助に任命した口宣案である。この藤原貞久は、世代的に考えて前号文書に見える野津親久の子と考えられる。親久は従六位上相当官の大炊助に就いており、貞久はそれより一階上の正六位下相当官の兵庫助に任ぜられたことが知られる。ちなみにこの文書で後光厳天皇の勅意を上卿に伝えている万里小路嗣房は、『建内記』の著者として有名な万里小路時房の父にあたる。南北朝期に於ける宿紙の実例の一つとしても貴重なものと言える。